



極秘

414  
A 792  
4

第一種

本誌  
五二  
一〇

明治三十一年五月三十一日米國 Tennessee

Chatanooga 發

陸軍砲兵少佐柴 五郎第十報告

米國義勇兵ニ関スル見聞雜記

義勇兵ノ召集ニ應シ來ル者ノ約半数ハ労働社會ノ者  
他ノ半数中ノ大部分ハ各州民兵ヨリ轉入セルモノニシテ  
是等ノ多クハ會社、商店、書記、番頭等ニテ概シテ中階  
級ニ屬ス其他ノ小部ハ富豪、紳士等ノ子弟ナリトス將  
校以下概シテ骨幹逞ク頗ル強健勇壯ノ風姿ヲ有シ  
其志氣モ甚ク旺盛活潑ナルヲ見ル未熟ノ青年其他  
虛弱ノ觀ヲ呈スル者至テ少ナシ  
右ノ如ク下階級ノ者最モ多ク中階級ノ者之次クト同



時ニ富豪紳士ニシテ義勇兵ニ志願スル者割合、多シ中  
ニハ前大統領或ハ國務大臣等ノ子弟モ尠ナカラス現  
今ノ大統領「マッキンレー」氏ト盛ニ競争シテ終ニ落第  
シタル彼ノ有名ナル「ブライエン」ノ如キモ單ニ一兵卒トシテ  
義勇兵トナレリ(右モ其後中佐ニ擧ケラレ現今ハ一聯  
隊ノ長トナリ居レリ)  
義勇兵諸隊教育訓練ノ有様ヲ概見スルニ各州民兵  
ヨリ轉入セル者ヲ含有スルノ多少ニ隨テ等差アリ其半  
數以上民兵ヲ含有スル諸隊ハ一通リノ密集運動ヲ爲シ  
得ルノ度恰モ我新兵ノ入營後五六ヶ月ヲ經タルモノニ比  
スヘシ但シ半數以上ノ民兵ヲ有スル隊ハ甚ク多カラス而シ  
テ其生地ノ運動ニ至テハ尚ホ甚ク幼稚ナリ  
彼等ノ練兵時間ハ大約午前三時間午後二時間ヲ通

例トス其訓練法ノ大体ヲ見ルニ先ツ中隊(二十五乃至三十名)ノ正  
面行進ト四伍側面行進トヲ併濶地ニテ教ヘ略熟スルニ  
至ル次、同レク併濶地ニテ散開併合ノ法ヲ教ヘ夫レ  
ヨリ以後ハ主モ大森林中凹凸各種ノ變化アル所ニ於  
テ中隊或ハ大隊時トシテハ聯隊ノ散開隊次ヲ以テ能  
ク一定ノ方向ヲ守テ進退シ且ツ方向ヲ變換スルヲテ能  
教ヘ又各停止毎ニ各兵ヲシテ地物ノ應用ヲ習ハレムルニ  
最モ注意スルモノ、如シ又射撃ハ隨意發火ヲ爲サレムルノ  
場合甚ク少クシテ大抵一下士ノ指揮下ニテ一隊ヲ  
辨令發火ヲ爲スヲ例トス蓋シ新募未熟ノ兵ノ射撃  
ヲ律スルノ良法ナルヘシ官ハ未タ一モ實彈射撃ヲ演  
習スルモノヲ見ス恠テ之ヲ向ヘハ一參謀將校答テ曰ク  
米國ノ男子ニシテ射撃ヲ知ラサル者稀レナレハ今急ニ

之ヲ教ユルノ必要ナシト成ル程米國ハ大ニ射的ノ流行ス  
ル所ニシテ壯丁ノ多數ハ畧、銃ノ使用法及射撃術ヲ  
知ルナルヘシト雖、召集ノ義勇兵全部皆ナ悉ク然ルヤ  
否ヤヲ甚ク疑ヘリ其後私カニ聞ク所ニ據レハ射的場ノ築  
設ニ着手スト云フ戦争始マリテ後テ數週日ニシテ始メテ  
射撃手場ノ築設ニ着手スル如キハ蓋シ他國人ノ想像シ  
能ハサル所ナレシ  
搜索及前哨等ノ警戒勤務ニ至テハ未ク其如何ノ状ナ  
ルヤヲ觀察スルノ機會ヲ得ス唯、三旅團ノ對抗演習  
ノ際、要所々々ニ四人哨、下士哨等ヲ配布セルヲ見タ  
レ、一連ノ歩哨線ヲ張リタルヲ見ス  
要スルニ義勇兵中割合ニ多クノ民兵ヲ含有スル者  
ハ小部隊ノ單簡ナル密集運動并ニ散兵運動ハ形ノ如ク

為シ得レ氏旅團以上ノ野外運動ニ至テハ少しモ見ルニ足  
ルモノナク諸部隊長多クハ戰術ノ何物タルカラ知ラサンカ  
ラ疑ハル、程ナリ  
義勇兵ハ皆ナ産馬地方ノ農民或ハ牧童ヨリ召集  
セラレタル者ニシテ實際殆ント馬背上ニ成長シタルナレハ  
其姿勢等々各地方ノ流儀ニ從テ各、異ナレ、何レモ  
騎乗ニ巧妙ナリ但シ密集運動等ハ素ヲ少しモ知ラス  
目下頻リニ教練中ナリ武器ハ第一ニ拳銃次ニ騎銃ノ  
用法ヲ教ヘ尚ホ時間アレハ軍刀ノ用法ヲ教ユル等ナリト  
云フ  
砲兵ニ至テハ前號報告ニ述ヘシ如ク砲モ馬モ有セサレハ  
唯、僅カニ徒歩運動ヲ為シツ、アンノミ歩兵ト違ヒ速  
急ニ大砲射撃ヲ為シ得ルノ運ヒニハ至ラサンヘシト信ス

少官八明六月一日當地出發 Tampha = 向フ  
米國陸軍總督「マイルス」少將モ其本營ヲ本日ヨリ  
Tampha = 移セリ (終)